

地域母子保健福祉情報紙 No.260

公益社団法人 母子保健推進会議

親子保健

お や こ ほ け ん

定款第 1 章第 3 条 目的 (抜粋)
国及び地方自治体
関係諸団体と連携協力して
母子保健の重要性を啓発し
母性の健康を守り たかめ
心身ともに健全な児童の
出生と育成に寄与してまいります

妊娠期から子育て期の家族を支えるために

ハクリネン博士を
迎えて研修会開く



ディスカッションでは講師全員から貴重な助言が

公益社団法人日本看護協会)。

本会議では、平成 26 年度より「妊娠期からの切れ目のない支援」を事業の柱の一つとしているが、中でも今年度は特に、「関係性の築き」をテーマとして各種研

修会はフィンランド大使館広報部プロジェクト・コーディネーターの堀内都喜子さんが担当した。

親になることへの自信と幸せ
ネウボラの対話で得られたもの

参事官夫妻は、妊娠が判明してすぐにネウボラを訪れ、以来健診には毎回夫婦で、出産後は家族で出かけている。ネウボラの健診は 2 つのパートに分かれていて、医療的な検査が 15 分程度、対話が 30 分程度となっている。どちらも大切だが、特に対話の時間は、親になる気持ちが芽生える大切な時間であったと感じている。毎回リラックスした雰囲気の中で、問診票による必須項目もあるが、体調、夫婦関係、仕事のこと等、生活全般に至るまでさまざまな話をした。保健師は、必要な情報提供もしてくれるが、常に対等な立場で、私たちの話を時間をかけて聴いてくれた。

祝・健やか親子 21 全国大会 (母子保健家族計画全国大会)

10月26日(金)、日本看護協会のJNAホール(東京都渋谷区)を会場に、研修会「妊娠期から子育て期の家族を支えるために必要な視点と技術～ネウボラの面接とその人材養成から学ぶ～」を開催した(主催:公益社団法人母子保健推進会議・共催:フィンランド大使館・日本学術振興会科研費助成「児童虐待予防強化のためのシステム開発を目指したフィンランドとの国際比較研究」(研究代表者:大阪市立大学大学院教授 横山美江)、後援:厚生労働省・

修会等実施しており、本研修はその一環として実施したもの。会場には、自治体保健師、大学教員、民間団体、メディア関係者等さまざまな職種・立場の方が参加した。

研修会では、まずショートメッセージとして、「利用者の視点で考える“ネウボラ”の目指していること」をテーマに、第一子をフィンランドのネウボラを、第二子を日本の母子保健サービスを利用している、フィンランド大使館報道・文化担当参事官が、自らの体験を比較しながら話をした。

今月のページ

- 妊娠期から子育て期の家族を支えるために必要な視点と技術 1～3
- 健やか親子21全国大会被表彰者功績紹介 4～11
- 紙上セミナー:8020の里づくり「地域共生社会・地域包括ケアシステムとかがりつけ歯科医」... 12～13
- 子ども虐待への対応～予防・早期発見・見守りのため歯科からの提言～ 14
- 子宮頸がん撲滅のために～若年層における子宮頸がん検診の重要性と最新の知見～/研修会のご案内 ... 15
- 国際講演会「乳幼児の発達と親子コミュニケーション支援～フィンランドの乳幼児精神保健とネウボラに学ぶ～」のご案内/編集帖 ... 16